

スツカリ下へ運んで仕舞ふて、今度は眞個の酒盛を始めました。

『ドムならんナ。あゝ云ふ輩は酒を飲むと直ぐ喧嘩しよる。誰も怪我は無かつたか。ア、夫れは良かつた……コレ繁八私し處の場所は何處やつた。確か此處やつたナ。……茶店の衆が皆片附けて呉れたんかいナ。』

『鳥渡待つとくはなはれや。……ア、此處だす。御馳走も何もおまへんで……。』

『どない仕たんやいな。』

『はてナ。……成る程左様か。いや旦那解りました。下を一遍御覽、向ふに湯巻吊つたりして、今喧嘩しよつた連中が圍まつてよる處を……。』

『アツ。向ふに家の重箱が往たアる。』

『あゝ、妾いの折詰も有る。家の酒樽も往たアるわ。』

『ア莫迦にしやがつて。……私いも何ぢやサア怪つ態な喧嘩やと思ふてましたんや。塵物の上を撲りよつたんで、眞劍の喧嘩に成たけど、大體は相對喧嘩してよつたんだつせ。あんな事して家の酒肴を奪りに來やがつたに違ひおまへん。……汝れ糞。……何と思ふて腐る……。』

『コレ繁八。そら何をしてるのや。鉢巻や腕捲りして徳利持つたりして……。』

『こんな事しられて黙つて居られますかいナ。向ふへ乗り込で彼奴等の横面張り倒して遣りまんね。』
 『止めとき。』
 『止めとき。』
 『相手は相手や。あゝ云ふ輩にそんな事したら却て五月蠅い。コレ止めときぢウのに』
 『阿呆らしい。旦那方の御最負に成て飲だり喰べたりする許りが幫間の能やおまへん。いや大丈夫、』

彼んな奴位に屁古垂れる繁八とは鳥渡違ひまつせ。……いゝえ酔ふてやしまへん。往てこましたりまんね……。ギヤイコラツ。汝れ等ア夫れ、何家のを飲み食ひさらしてんね。』

『ヒツ。何奴や。』

『何ぢや。』

『ウイー。ど、どないや云ふてよんね。』

『人の陣取りした處へ鉢巻してうせて、何ちウ大きな聲出しやがんね。何ぞ氣に入らん事が有るのかいッ。ハハア。汝れは先刻から此上で、ワイノ吐してケツかつた幫間やな。向方に有た酒や肴を持って來たんが不可んちウて腐るのか。腕捲りして徳利提げてる處を見ると夫れで俺れ等を殴るとも云ふのんか。イヤこら面白い。オイ羅宇仕替屋、齒入屋。皆幫間に殴て貰はふや無いかい。さア殴つて呉れ。殺して呉れ。』

『ウーム。……ウームそんな……。』

『さア遣て貰はふ。一遍死だら二度とは死なんわい。さア殴れ。殺しやがれツ。』

『チョツと待つとくはなはれ。何も殴るのどふのとそんな意りで來たんやおまへんね。……。』

『そんな意りや無いのんなら。其腕捲りや鉢巻は何ぢやいッ。』

『へエこれは……豪ふお陽氣相におますさかい。私いも鳥渡踊らして貰はふと思ふて……。』

『啞吐けツ。そんな手に持てる徳利は何ぢや。』

『これは其。……ウーム銚子のお代りを持て來した。』

(完)